



堺泉北港 泉北6区 緑地整備事業

建設事業評価委員会

平成19年 6月 26日

1



位置図



2



事業箇所



H18.12撮影

3



事業概要



整備内容：緑道部 面積2ha
緑地部 面積7ha

総事業費：約15億円(現時点)

整備期間：平成4年～平成26年(現時点)

4



事業目的

海辺において府民が自然に親しみ、憩える水辺空間を形成するとともに、人や生物にとって良好な海辺環境を創出する



これまでの経緯

平成 4 年度	事業着手
平成 13 年度	再評価 (意見具申:緑地整備内容見直し)
平成 14 年度	ワークショップ形式で見直し案作成
平成 14 年度	事業評価委員会で 見直し案承認
平成 15 年度	緑道供用開始、緑地整備着手
平成 19 年度	再々評価
平成 26 年度	事業完了 (予定)



再評価による見直し

平成13年8月 意見具申内容

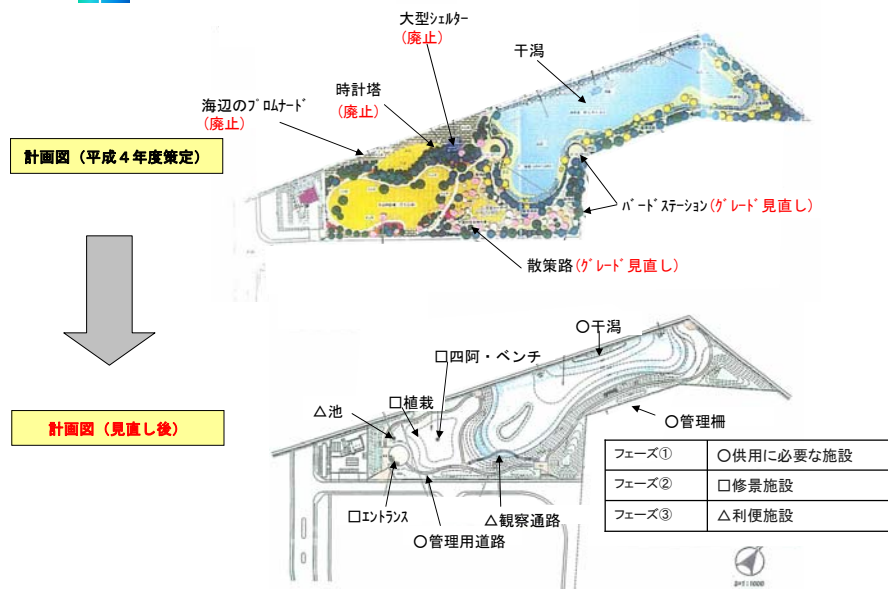
- 「府民が自然に親しみ憩える水際空間を形成するとともに人や生物にとって良好な海辺環境を創出する」ことの必要性は認められる
- 建設費のみならず将来の維持管理費も含めた**コスト削減**のさらなる工夫
- 地元市をはじめ関係者や利用者などと十分**協議・意見交換**
- 段階的整備**を考慮し、当面必要不可欠な基盤的整備に限定した計画変更



見直し案がまとまった段階で、委員会に示し判断を求める



再評価による見直し





再評価による見直し

計画の変更によるコスト削減

計画(見直し前)		計画(見直し後)
緑道		緑道
干潟		干潟
多目的広場・海辺プロムナード		野鳥園と散策の森のみ
多目的施設	大型シェルター	計画見直しにより廃止
	時計塔	計画見直しにより廃止
	バードステーション	グレード見直し
	散策路	グレード見直し

リクリエーション等多機能を有する
都市公園的な緑地



自然系の緑地

平成14年見直し
(市民との意見交換により)

9



再評価による見直し

- ・緑地タイプ変更(施設内容見直し→自然系緑地)
- ・植栽エリアの一部を自然に委ねる



建設コスト削減

- ・市との協力体制の充実
- ・市民、NPO等との協働による維持管理(清掃等)



維持管理コスト削減

- ・緑地基盤の造成後、ワークショップ開催により施設内容、整備手法を検討し柔軟に対応
- ・施設の利用状況、自然の回復状況などをみながら実施していく
- ・植樹等市民参加による整備
- ・市民、NPO等による野鳥観察会実施
- ・地域住民が計画づくりに参加できるワークショップ形式

市民との意見交換

10



再評価による見直し

段階的整備

市民ニーズ及び社会情勢等の変化に対応できるように、緑地整備を段階により区別し、一定の整備が行われる毎に整備内容の検討を行う。

第1段階 供用に必要な施設

第2段階 修景施設

第3段階 利便施設

11



再評価による見直し

H13年意見具申を受け、H14年に見直しを行った

事業費

23.2億円

緑道部 11.5億円
緑地部 11.7億円

見直し

緑地
タイプ

リクリエーション等多機能を有する都市公園的な緑地

17.0億円

緑道部 11.5億円
緑地部 5.5億円

自然系の緑地

12



再評価による見直し

平成14年 10月30日

建設事業評価委員会において審議の結果、**見直し案承認**



事業の進捗状況



事業の進捗状況

※泉北6区への企業進出状況

全体 26.6haの内

22.1ha契約済(83%)

・分譲契約 : 9.2ha
(5社)

・賃貸契約 : 12.9ha
(8社)

H19年契約見込: 1.3ha
(1社)



事業の進捗状況

緑道





事業の進捗状況

全景



事業の進捗状況



平成13年度末
事業費(実績) 9.0億円



平成18年度末
事業費(実績) 11.7億円



再評価後の見直し



コスト縮減理由

- ・リサイクル材料の利用促進等によるコスト縮減

事業期間延伸の理由

- ・行財政改革による事業費配分を見直し
津波防災関連費用に重点投資を行ったため、当事業費への単年度事業配分が減少



事業効果について

定量的効果

費用便益比 $B/C=2.54$

- ・ 便益総額 $B=97.7$ 億円
- ・ 総費用 $C=38.4$ 億円

環境便益:生態系や自然環境の回復・保全
(CVMアンケートにより算出)

* 算出根拠: 港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル(国土交通省港湾局 平成16年6月)

定性的効果

安全・安心

- ・ 歩行者と車を分離して、歩行者の安全を確保するとともに散策やジョギングが**快適**に行える(緑道整備)
- ・ 港湾内就業者の**休憩場所**を提供することで、職場環境の改善を図る

活 力

- ・ 日常的に海に触れ合い親しむことができ、レクリエーション活動等地域の賑わいの源となる
- ・ **野鳥**や**水生生物**の観察ができる**水辺**が身近となり、**学習・体験**ができるようになる

快適性

- ・ 積極的な緑化を進め、港湾施設のもつ威圧感を緩和し、**潤いのある空間**を形成する

定性的効果

自然環境

- ・ 港湾の開発により失われた**水辺空間**を**創造**し、**野鳥**や**水生生物**等の**生息**できる場を提供する

環境意識向上

- ・ 人工的な干潟に多種多様な野鳥が飛来(希少野鳥の出現)
- ・ 市民との協働によるワークショップ活動を通して**環境意識の向上**

ワークショップ参加者

ホームページ、広報紙において参加者を募集



泉大津市、高石市、和泉市の方
日本野鳥の会の方

現在 20名で活動



ワークショップの取組み

平成14年度



平成19年度

主な活動内容

- ・ワークショップを母体とした市民組織の育成
- ・ワークショップのあり方、方向性検討
- ・緑地計画イメージづくり
- ・緑地計画検討・立案
- ・先行事例調査(南港野鳥園、堺千年の森見学)
- ・工事概要・計画の報告
- ・野鳥観察会
- ・植樹について検討
- ・今後の管理方針について検討
- ・段階的計画検討



ワークショップの取組み ワークショップ活動



平成18年10月



平成19年5月



野鳥観察状況

平成19年5月



現地の状況

- ・干潟部にはヨシ等が育ち自然干潟に近づきつつある
- ・緑地部にシギやチドリ等の水鳥が飛来し、生息地を形成



トウネン

2006年度 野鳥の飛来状況

- ・コチドリ (準絶滅危惧種)
- ・シロチドリ (絶滅危惧種)
- ・メダイチドリ (準絶滅危惧種)
- ・ダイゼン (準絶滅危惧種)
- ・トウネン (準絶滅危惧種)
- ・ヒバリシギ (準絶滅危惧種)
- ・ミユビシギ (準絶滅危惧種)
- ・キアシシギ (準絶滅危惧種)
- ・イソシギ (準絶滅危惧種)
- ・ソリハシシギ (準絶滅危惧種)
- ・オオソリハシシギ (準絶滅危惧種)
- ・チュウシャクシギ (準絶滅危惧種)



野鳥の飛来状況

コチドリ



トウネン



29



野鳥の飛来状況

キアシシギ



オオソリハシシギ



30



野鳥の飛来状況

ダイゼン



ヒバリシギ



31



今後の取り組み

- 自然の回復状況を考慮しワークショップ等で検討しながら、整備をすすめる
- 地元市や周辺企業と連携
- 植樹整備の検討・実施
- 完成後の管理方法等の検討

32